

機関番号：17101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19530494

研究課題名（和文）乳幼児期の障害児を育てる家族のニーズに関する研究

研究課題名（英文）Research on the Needs of Families of Young Children with Disabilities

研究代表者

納富 恵子（NOTOMI KEIKO）

福岡教育大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：60228301

研究成果の概要（和文）：

本研究では、以下の4点について成果を得た。

- (1) 米国で開発された家族ニーズ質問紙をもとに日本版「家族ニーズ質問紙」を開発した。
- (2) 日本版「家族ニーズ質問紙」の実施の利点と課題について調査分析した結果、家族と支援者双方が、ニーズの把握に加え相互の信頼関係の構築や共通認識に基づく支援計画の立案に役立つと評価した。
- (3) 米国の個別の家族支援計画の立案プロセスを明らかにするために、ソーシャルワーカーに面接調査をおこなった。
- (4) 障害特性や障害の重症度による家族ニーズの違いを明らかにするために、障害種および重症度別にニーズ調査の結果を分析した。

研究成果の概要（英文）：

In this study, the results obtained for the following four points.

- (1) Based on Family Needs Survey developed in the U.S, we developed "Family Needs Survey Japanese version".
- (2) We analyzed the benefits and challenges of implementing the "Family Needs Survey Japanese version". Both service providers and families concluded that the survey is useful for building mutual trust and planning support plan based consensus
- (3) In order to clarify the planning process of the individualized family service plan in the U.S., we conducted interviews with social workers in the U.S.
- (4) In order to clarify the differences in family needs due to the severity of impairment and disability characteristics, we analyzed the results of a needs assessment by the families.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：障害児医学・特別支援教育・児童精神医学  
科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学  
キーワード：障害児・乳幼児・家族ニーズ

## 1. 研究開始当初の背景

障害児の将来の自立と社会参加を可能にするためには、個別の支援計画を立案し将来を見通した継続的な支援が必要である。とりわけ就学前には、障害児への直接支援に加え、彼らの発達に重要な影響を及ぼす家族のニーズを把握し支援計画を立案する必要がある。しかし日本では、質問紙などを用いて家族のニーズを体系的に把握する手法に関する研究が乏しく、家族のニーズを把握する手法の開発およびその社会的妥当性および有用性を確認し、実践モデルを創出する研究が必要と考えられる。

## 2. 研究の目的

この研究の目的は、以下の4点である。

- (1) 障害児の家族のニーズを、系統的に把握できる「家族ニーズ質問紙」を、海外の研究動向を参考に開発する。
- (2) 開発した質問紙を日本の家族に実際に適用し、実施による利点および課題や限界を検討する。
- (3) 個別の支援計画立案時の、情報収集法としての活用の仕方を明らかにする。
- (4) 障害特性や重症度などの要因による家族ニーズの違いを明らかにする。

## 3. 研究の方法

- (1) 米国で開発されたファミリーニーズサーベイを日本語に翻訳し、日本の実情に合わせ、保護者や療育関係者の意見を参考に、理解しやすい訳語にするとともに、制度の

違いからさらに必要とされた項目を付加し日本版「家族ニーズ質問紙」を開発した。

- (2) 開発した日本版「家族ニーズ質問紙」の社会的な妥当性を確認するために、実際に乳幼児期の障害児を育てている家族に利用してもらい、家族と支援者から利用しやすさ有用性等について質問紙を用い調査した。
- (3) 個別の家族支援計画立案時の、情報収集法としての活用法を明らかにするために、米国マサチューセッツ州ボストンおよびハワイ州で、主に個別の家族支援計画立案の実務に携わっているソーシャルワーカーより聞き取り調査を行った。
- (4) 障害種別や重症度により家族のニーズがどのように異なるのかを質問紙を用い調査した。

## 4. 研究成果

- (1) 米国で開発されたファミリーニーズサーベイを参考に、障害児の家族のニーズを系統的に把握できる「家族ニーズ質問紙」の日本版を開発した。これは、家族にとって必要とされる領域である、「情報」、「家族・社会的支援」、「経済面」、「他人への説明」、「子どものケア」、「専門家の支援」、「地域の支援」、「その他」の8領域、計37の質問からなり、ニーズがあるかを、家族が、「はい」、「どちらでもない」、「いいえ」の選択形式で回答するものである。開発には、米国で開発されたものを翻訳したうえで、少人数の保護者と支援者により項目の吟味

を行い日本で必要と思われるものを付加し最終版を作成した。

- (2) 開発した質問紙を、福岡県下で研究協力が得られた医療福祉機関に依頼し、日本の乳幼児期の障害児を育てる家族160名、およびその支援者28名から得られた回答を分析し、社会的妥当性に関する検討を行った。

その結果、家族は、量は適切である(59.6%)としたが、支援者は、長い(75.0%)と判断した。記入により支援やサービスの必要性の気づきや確認ができたかは、家族(66.4%)および支援者(92.6%)と双方が高く評価した。家族と支援者の信頼関係や関係構築に役立つかについては、家族(71.0%)支援者(78.5%)の双方とも高く評価した。得られた情報が役立つかについては、家族(76.4%)支援者(82.8%)であり、高く評価された。家族には、情報を伝える手段としては、面接が、最も好まれてはいたものの、この質問紙により、家族のニーズの把握のみならず、支援者と家族との信頼関係の構築や支援計画に反映できるなど多面的に有用性を感じており、障害のある乳幼児の支援システムへ導入することは意義があることが示唆された。

以上のことから、家族支援や個別の家族支援計画立案の際に、この質問紙を導入することは、支援の質向上のために意味があることが明らかになった。

- (3) 個別の支援計画立案時の、質問紙の情報収集法としての活用の仕方について、米国の文献を中心に個別の家族支援計画(以下IFS P)の立案プロセスに関して概観した。さらに実際のプロセスについての情報

収集をハワイ州およびマサチューセッツ州の病院および早期介入機関に直接訪問し、ソーシャルワーカーに面接を行い、各州でのIFS P立案時の書式やその際のプロセスについて情報を得た。

- (4) 障害特性や障害の重症度などの要因による家族ニーズの違いを明らかにするために、本質問紙を用いて分析を行った。165家族から得られた質問紙およびその他の背景情報をもとに、障害種別としては「知的障害」「肢体不自由」「聴覚障害」「未診断」の4群に分け検討した。「情報」「家族・社会的支援」「経済面」「他人への説明」「子どもへのケア」「専門家の支援」「地域の支援」「その他」のニーズがあるとした家族の割合の分布パターンはおおむね類似していた。また学校や療育機関などの選択への支援ニーズである「その他」と「情報」の領域のニーズは高かった。「未診断群」は、経済面以外すべての領域でニーズが最も高かった。

また、障害の重症度と家族のニーズとの関連を明らかにするために、療育手帳の判定や機能的自立度とニーズとの関連をみた。療育手帳判定のAとBでは、より障害の程度が軽いBのほうに「その他」のニーズが高かった。このことは、家族は、障害の程度が軽いほど、サービスの利用や就学について判断する際に支援がより必要であることを示唆している。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

- ① 平野愛、納富恵子、障害のある乳幼児を育てる家族のニーズに関する研究—家族ニーズ調査の社会的妥当性の検討—特別支援教育センター研究紀要、2巻、27-40、

2010 査読なし

- ② 納富恵子、平野愛、日本における障害のある乳幼児を育てる家族への支援システム構築に向けた課題の検討－米国の家族支援システムと家族アセスメント研究の概観から－、福岡教育大学紀要、58巻(4)、191－197、2009 査読なし
- ③ 永井明子、納富恵子、猪狩恵美子 米国における乳幼児期の障害児の家族ニーズ評価－Family Needs Surveyの検討を中心に－福岡教育大学障害児治療教育センター年報、21巻、31-36、2008 査読なし

〔学会発表〕(計 11 件)

- ①九十九真知子、九十九光博、納富恵子 自閉症児の母親のストレス 家族支援プログラム介入前後のPSI 育児ストレスインデックスを用いた評価 日本特殊教育学会第 48 回大会 2010 年 9 月 21 日 長崎大学
- ②納富恵子、平野愛、障害のある乳幼児を育てる家族のニーズに関する研究(1)－家族ニーズ調査「Family Needs Survey」を用いて－日本特殊教育学会第 47 回大会、2009 年 9 月 19 日 宇都宮大学
- ③納富恵子、平野愛、障害のある乳幼児を育てる家族のニーズに関する研究(2)－家族ニーズ調査「Family Needs Survey」を用いて－日本特殊教育学会第 47 回大会、2009 年 9 月 19 日 宇都宮大学

〔図書〕(計 4 件)

- ①納富恵子 第三部保護者や関係機関との連携 第 13 章 専門機関や地域との連携 2 医療機関との連携 柘植雅義、納富恵子 他 2 名編集 初めての特別支援教育 教職を目指す大学生のために 有斐閣 2010
- ②納富恵子、山下洋、吉田敬子 子育てのストレス 173-177 市川宏伸、鈴木俊介 編集 中外医学社 2009
- ③上岡一世、納富恵子 編著 自閉症の基本障害の理解とその支援・対応法 149 明治図書 2009

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/Research/pdf/15-02.pdf>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

納富 恵子 (NOTOMI KEIKO)

福岡教育大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：60228301